

当日のプログラム実践

■実践前の確認事項

実践の前に、もう一度実践計画書を確認しましょう。そのプログラムをおこなうことにより、参加者に何を伝えたいのかが自分の中に整理されていますか。

- ①教材や心の準備ができているか
- ②このプログラムを通して伝えたいことを確認しているか
- ③参加者の隊商に応じた言葉かけや、人数に応じた配慮はできているか
- ④指導員の5つのルールを確認しているか

- ⑤前後のアクティビティとのつながりや雰囲気大切に導入や分かちあいが行えるか
- ⑥予測される危険な状況と対策が確認できているか

■実践時の心配り

.....

その日のアクティビティの中で、少なくとも1回は参加者全員と直接言葉を交わすようにころがけたいものです。参加者の中には、いつも1後ろの方において言葉数の少ない消極的な人もいますので、このような人たちへの心配りこそ気をつかきましょう。

■実践中のチェックポイント

(1) 相手に伝わる話し方

話したことがきちんと相手に伝わっているでしょうか

- ①よいことを話しているのに、声が小さかったり話し方があまり上手でないために伝わらない
- ②必要以上に話しすぎて、一番伝えたいことは何なのかぼやけてしまう。

- ・ポイントの整理
- ・鏡に向かって話の練習
- ・テープに録音して聞き直す
- ・相手の話の内容を復唱して、それから自分の話を続ける
- ・ちいさな子のいる時は、一番年少の子に向かって話をし、そのやりとりを参加者に聞いてもらう

(2) リーダーの立ち方

参加者に向かって話をするとき、心がけたいポイント

- ①太陽に向かって立つ
- ②斜面ではリーダーが谷側に位置し、参加者がリラックスして座れるようにする
- ③人数が多い時には一段高く
- ④風上に立つ（声が通りやすくするため）

(3) 身ぶり手ぶり

(4) サブリーダーの役割

(5) 言葉のキャッチボールを

(6) 参加者の様子を常に把握しているか

(7) 人前に立つ「リーダー」としての自覚

(8) その他、実践中の会話のポイント

- ①最初に笑いやユーモアを交え、リラックスした雰囲気を作り出す。
- ②簡単な質問をする
- ③その話題に引き込むきっかけの話をする。
- ④アクティビティの前後に、そのアクティビティの内容に関連した自然についての話をそのまま導入へつなげる。
- ⑤自分自身の体験を交えると説得力や好感がもたれる
- ⑥参加者が体験したことを日常に繋げられるや言葉かけや、参加者への期待も織りまぜて締めくくる。